



# 開館10周年記念号

◇新旧館長対談 横浜の歴史を微視的に巨視的に

◇10年のあゆみ

企画展・特別展の10年

普及啓発事業の10年

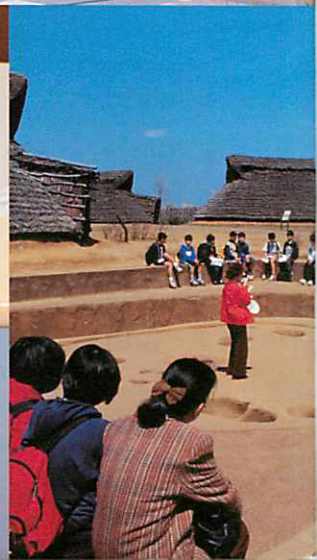
市民参加事業

◇今後の博物館が目指すもの



# 横浜市 歴史 博物館 NEWS 号外 2005・1

おかげさまで10周年  
これからもよろしく。



## 新旧館長対談

# 横浜の歴史を微視的に巨視的に

開館一〇周年を迎えるにあたり、開館までのいきさつ、開館後の活動、今後の展望・展開というテーマで、高村直助館長と平野邦雄前館長が対談をいたしました。司会は、前沢学芸課長です。



前沢学芸課長

## 「横浜に生きた人々の生活の歴史」と横浜

前沢 当館の特色には、大きくまとめて次の三点があります。一つは現在の横浜のよく知られている部分とは違い、対象とする時期を「開港期までを中心とする」としていること。二つめは考古分野の比重が大きいこと。これは、はじめに港北ニュータウン内に考古資料館を設ける構想があったことによります。三つめは資料収集や展示の基本理念を、「横浜に生きた人々の生活の歴史」としているという点です。

このような特色を持つ当館の基本計画や実施設計といった具体的な作業は一九八九（平成元）年



平野邦雄前館長

頃から始まっています。高村館長は、開館前から展示指導に加わっていらしたとのことです。

で、そのあたりのいきさつからお話ししていただきたいと思っています。

高村 私が関わったのは実施設計の段階からです。「横浜に生きた人々の生活の歴史」という基本テーマは、数年前にできていた国の歴史民俗博物館（千葉県佐倉市、一九八三年開館）がこのような観点に立っていましたし、歴史研究の大きな流れも支配者の歴史から庶民の歴史へとという視点的移動がありましたので、この方向で意見がまとまったのです。

また、類似の施設としてすでにあった横浜開港資料館と役割を分担するため、当館は通史展示を基礎とし、企画展示については近代以前を主にすることになったわけです。さらに、もともと考古資料館という構想があったことも踏まえて、考古的な部分にやや比重を置いた通史展示ということになりました。

前沢 常設展示室は円形になっていて、中心にスタディサロンがあり、その周りが六つのブースに分けた展示となっています。

高村 展示方法の大きな特徴になっていますね。円形を活かし、時代を六つに分けて周囲に展示ブースを配置し、真ん中を休憩の場所あるいは学習の場所として、行ったり来たりできるようにしました。そして、各時代のブースの三つの壁面の同じ場所を同じテーマで通し、そこだけを追っても時代の動きが見えるようにしました。最初の

壁面に「変わる横浜の形」を持つてきて、その時代の横浜の地理的变化をとらえ、それから円

に接した外側の壁は「ムラに生きる人々」ということで日常生活を主に見ていただく、そしてもう一つの壁面は「人とモノの流れ」とし、交流という主題で見えていく、そういった枠組みにしようという議論をしたことを記憶しています。そして、各ブースの中心にそれぞれの時代を象徴するような模型を置くことにしました。

前沢 「横浜に生きた人々の生活の歴史」というテーマが選ばれたのは、横浜市域の歴史のあり方と大きな関わりがあるのですね。

平野 この基本テーマは、横浜というフィールドをとらえるには非常によく合っているとと言えます。福岡、北九州、広島、大阪、名古屋、仙台など政令指定都市の半数は、



高村直助館長



スタディサロン

城下町が基礎となっています。横浜は大都市にもかかわらず、城下町というような伝統的な歴史を欠いている。欠いているというマイナスに聞こえるかもしれませんが、逆にいうと非常な特性をそこに持っているわけです。政治権力の中枢にいたことはないけれども、中枢を外辺で支えるという特性です。

古代に目を移すと、現在の横浜地域である相模・武蔵というのは、ヤマト王権の直接の基盤となっていました。ヤマトから地理的には遠く離れていますけれど、ヤマト王権のヒンターランドでもあるし、フロンティアでもあつて直轄地に近い地位を持っていました。ここがなければヤマトに王権は成立していませんね。

中世では、金沢区は鎌倉の掬め手的な役割と表裏的な役割と両方を持っている。ここに港湾がないと鎌倉は存立していません。補給基地ですし、貿易の基地であつたわけです。

近世になりますと大名領ではないが小さな旗本とか、幕府の寺社領とか、大奥の化粧料とか、小さい領地がたくさんありました。代官はほとんど名主が兼ねていて、長い物に巻かれないう非常に自立性の強いところで、自分たちがこの所領を動かしているんだという意識が強いところです。これはおそらく、古代からの状況が影響しているのではないかと思います。中央の皇族や貴族の直轄領、これは所領ばかりでなく封戸というようなものが密集していたところですし、畿内の寺院の領地が非常に多いところもあります。だからわれわれが大和の政権を支えているという意識が強かったのだと思いますね。

さらに江戸時代も後期になると、一歩江戸から

離れているけれども、神奈川宿という重要な湊が品川に対応してあつたうえに、実際に開港するのは神奈川宿からもう一歩はずれた横浜です。日本の幕末から近代にかけて、江戸（東京）を控えた中心地点です、横浜は。結果としては政治権力を支えるわけです。古代からこのようないろいろな性格を持っていて、しかし権力の中枢に位置したことはない。ですから横浜地域の歴史というのは、刺激的で、一般の地付きの人たちが他の地域に比べると非常に活発です。

**前沢** 横浜地域の歴史は、古代からずっと刺激的であつたということですね。

**平野** 横浜は、ミドルやローワークラスの文化が非常に発達したところ、意識的にも現実的にも非常に刺激性に富んだところと考えていいと思います。つまりは、日本文化の特質をよく体現しているのが横浜だといってもかまわない。だから、「横浜に生きた人々の生活の歴史」という基本テーマはいいテーマだと思うわけです。このテーマを、もっと全国的な視野を入れて掘り下げていく必要があると思いますね。

**前沢** 人々の生活の歴史を扱うのは方法としては難しいのですが、準備段階、計画段階でどういった工夫があつたのですか。

**高村** たとえば、「近現代」ブースでいいますと、開港以後を扱うにしても、都市化という問題もあるが同時に周辺の農村地帯が長く存在しているという観点も入れたということ、村の生活を地元の資料にもとづきながら、当時比較的新しい手法であつたマジックビジョンで展示しました。もう一つは、お年を召された方に思い出話をしていたながら、横浜の現代史を辿るという

ビデオのコーナーを作りました。非常に身近に感じられて、現代史の手がかりとしてよかったと思っています。

**前沢** 「おばあちゃん時代」というコーナーですね。これはお客さんからも大変評判が良く、足を止めている方が多く見受けられます。

実際には、生活の歴史をわかりやすく表現するのはなかなか難しく、そのためには実物資料を中心としながらも加工した資料、模型やパネル、映像資料というもので補助することが必要となっています。これは、常設展示の特徴の一つになっています。



博物館の建物が竣工した頃



開館 テープカットには来館者2名と中川西小の6年生2名に参加していただきました。

## 巨大都市横浜の「ふるさと」意識の醸成を

前沢 また、当館の特徴として、国史跡の大塚・歳勝土遺跡を含んだ遺跡公園を博物館の野外施設として設けられた資料館や、博物館の中で遺跡を扱うということがあります。博物館の展示と併せて野外施設を対等の関係におくというのは珍しいと思います。つまり当館は、館内での展示や活動だけでなく、史跡を積極的に活用するのが大きな特徴になっています。そこで工房を使つての体験学習や、復元整備された遺跡での「古代人まるごと体験」といったようなことを行っているわけですが、日常的には横浜の数少ない古代の風景をみられる場所として親しまれています。

平野 この博物館は大塚・歳勝土遺跡を付属している、博物館としては珍しい。ただ残念なのは、はじめは、遺跡に付属する資料館として計画されていたために博物館としては規模が小さく、横浜という巨大都市の唯一の歴史博物館としては、面積が一万㎡を割っていますね。政令指定都市としては珍しい狭さです。そこが欠点ですが、その活動内容は大変広く、また、内容も高いと思います。高村 私も、当館はすでに他の施設のお手本になるような活動をしていると感じています。近年、文化財の活用ということが盛んに言われていますけれど、当館では先行的に実行してかなり成果も上がっているのではないかなと思います。

むしろ問題があるとしたら、PRが足りなかったと感じています。横浜は首都をのぞけば最大の巨大都市で、人口が最も多い。しかも人口が多い

だけでなく、都市の成り立ちからして、開港によつて全国から人が集まってきた都市であるという特徴が、その後も依然として続いている。地元出身者でない方が非常に多いという特徴があると思います。そこで、横浜市民としてのまともなことをどうつけていくかが、他の都市と比べてより大きな問題となっています。当館を運営する財団の名前がつけられた時に、「ふるさと」というのが入ったのも、歴史を横浜市民の連帯の基盤として大事にしていきたいという願いが込められていたからです。とくにそれは、行政サイドの強い願いであつたと思います。博物館事業は、もともと費用対効果といった点だけでは評価できない文化事業ですけれども、とりわけ巨大都市の市民のレーゾン・デートル、つまり存在基盤をしつかり固める大事な事業だと思っています。行政サイドだけでなく、市民サイドからも、そういう観点からお力添えをいただければありがたいと思っています。

前沢 市民の方のお話を聞くと、多くの方がよその土地から来て、横浜に住むようになったことが分かります。それが先ほど話があつたエネルギーの源というのでしょうか。横浜地域の歴史を振り返ると、その原型はるか昔にできあがっていて、連綿として続いていると受けとめています。その中で、見学に訪れる多くの子どもたちに、今の自分が育っている場所を知ってもらう、理解する手がかりをつかんでいってもらうのが当館の非常に大きな役割であると考えています。その点で、学校との関係をきちんと把握し、連携していかなければならないと思っています。

平野 現代の博物館がかつての博物館とは意味



大塚・歳勝土遺跡

あい、レーゾン・デートルが違つてきたというのは、世界的に共通の現象です。アメリカの博物館協会の報告書でも、公共サービスと教育的活動が博物館の本質であると言いつつ切っています。イギリスの大英博物館のものを読んでも、あそこはそういうことはやらなかつた博物館なのですが、アメリカと同じように、公共サービスと教育的配慮というものが非常に表面に出ております。日本の場合もそうです。

## 新しい視点を提供していく

前沢 開館以来ほぼ一〇年近く基本理念に基づいた活動を心がけてきましたが、この視点を今後

発展させる、継承させる、深めるという点ではないかがでしょうか。

高村 常設展示の寿命は一〇年と言われます。

一〇年たてば歴史の研究も進む、お客さんもいつまでも同じものを見続けてはくれません。当館も開館一〇年ということで常設展のリニューアルを準備しなければならぬ時期にあります。とくに、我々が目指している人々の生活という点では、この一〇年、歴史研究全体の中でもかなり重視されてきた分野で、いろいろな業績が上がっています。それらを汲み上げながらリニューアルしていくのが大きな課題だと思います。

平野 横浜の文化的あるいは経済的、その他の特性を取り上げるときに、それを日本の歴史にもう少し普遍化していく努力があれば、観客に新しい視点を提供していくことになると思います。新しい視点を提供するためには、やはりアメリカの報告書のいう「卓拔性」つまり高度の学術性が必要です。

たとえば、特別展「古代日本 文字のある風景」(二〇〇三年四月開催)をやりましたね。あれは国立歴史民俗博物館と協業したものと、それと対応して、武蔵・相模の地域の文字文化というものを紹介した「文字との出会い」展(二〇〇三年五月開催)と二つセットで開催しました。どちらも文字というモノにつられてしまった傾向があるんですね。もう少し文字文化の伝播や、庶民の受容する力に着目する必要があったと思います。これは漢字に倭風を加え、どんどん変えていったという日本文化の底にあるものと同じことなのでね、そういうところを開拓して展示するということが必要でした。

前沢 二つの展示によって古代の文字を多角的・総合的に理解できる機会を提供しようというのが狙いでしたが、もう少し広い視野と深まりが必要だったということですね。

平野 それから交通関係でも、もう少し視野を広げてみてはどうかと思っています。地元に着する部分と、いったん地元から離れて改めて見直すという面と両方あった方がいいんじゃないかと思っています。たとえば足柄や箱根を視野に入れてはどうか。資料もかなり豊富だし、横浜の宿場と非常に密接な関係があるわけですから、うちのレパトリーに入ると思います。これは日本全国の交通体系全体の問題でもあるわけです。

また、近世の旗本領についてももう少しきちんと研究する必要があると思います。旗本のことがわからないと、横浜気質はわからない。旗本領の展示は「江戸時代の獅子ヶ谷村」(二〇〇三年一月開催)でやりましたね。旗本そのものについては、歴史学会でも研究の具体性が乏しいんですね。わかっているようでわかってないんです。

前沢 開館以来、五〇回近くの企画展を開催してきました。ほとんどが自主的な企画展ですが、外部と提携したことが三回あります。考古学と古代のもので、このことは当館の実績が踏まえられていて、全国的な評価をいただいているからだと思います。

平野 時にはよその博物館と提携するのも必要なことですよ。「幻の宮 伊勢斎宮」(一九九九年三月開催)は、斎宮歴史博物館との提携で非常に人気が高かったですね。横浜の生活の歴史ではないけれども、もっと発想を展開していく考えを一方では持った方がいいと思います。地元を微視的

にきちんとやると、それを巨視的に見直すことと両方を考えることが求められているのです。

前沢 横浜市歴史博物館はさまざまな面で厳しい状況におかれていますが、ここで今までの蓄積の成果をもう一度見直し、常設展示の全面的な更新や企画展につなげていく活動、普及活動、情報発信活動などに取り組んでいきたいと思っています。おこがましい言い方になりますが、当館はいろいろな点で全国の博物館からも注目をされています。その自覚を持ちながら進めていきたいと思っています。



「幻の宮—伊勢斎宮」



「古代日本 文字のある風景」

# 一〇年のあゆみ

## 企画展・特別展の一〇年

### 開館一〇年を振り返って

―学芸係の事業から―

一九九五（平成七）年一月三十一日、「横浜歴史博物館（仮称）」の仮称がとれ、横浜市歴史博物館が正式に開館を迎えました。この前日までは開館することが目標でしたから、まずはそれが達成されたわけです。しかし、館員にとっては、この日はただの通過点にすぎず、産声を上げた新しい館に命を吹き込むという、地道な活動の継続が新たな使命となった日でもありました。

当館は横浜に關係する資料を収集し、それを後世に伝えるため環境を整え必要に応じ修繕等を加え保管し、収集された資料がどのような価値を持つかを調査研究を通し明らかにし、さらにその成果を展示等で公開していくことが使命です。まだ館のかたちさえもなかった準備室の時代から、館の特徴を際立たせ、与えられた使命をいかに達成するか、開館準備と並行し昼夜を問わず話し合

が進められました。まさに横浜市歴史博物館が横浜市の博物館たるべき所以の部分です。

開館以来、収蔵庫には四五〇〇〇点を超える資料が、市民の皆さまからの寄贈や寄託を頂き、また購入したりして集められました。すでに収蔵庫は一杯です。うれしい悲鳴ともいえるべきでしょうか。この内、五〇件を超える資料の修繕も行われました。また、これらの資料の整理・調査研究・写真撮影等も進みました。こうした活動は日頃市民の皆さまには目にふれにくい部分です。しかし着実に一〇年を刻んでいます。

一方、成果を公開する事業も確実に進んできました。その最も大きな事業が企画展・特別展の実施です。展覧会は横浜市の歴史や文化財を市民の皆さまに知っていただく一つの方法ですし、親しみのある事業の一つではないでしょうか。企画展をご覧になられた方も多いと思います。これも開館前から、開館したらどのような記念展を催し、その後どのような方向で企画展・特別展を実施していくか、活発な話し合いが続けられまし

た。その成果は開館記念展「弥生の“いくさ”と環濠集落」をかわきりに、それぞれの担当学芸員が、調査研究の成果を最大限に生かし、知恵を絞り実施してきた展覧会に現れています。その数は、この一〇年間で四八本を数えます。これは実に一年に平均五本ほどの展覧会を行ったことになりました。ものすごいペースです。

一〇年一節といえます。開館以来進めてきた各事業は順調に進んできたと思自負しています。今後ともこれまで通り、館を支える仲間とともに真剣に話し合い、問題を解決し、方向性を検討し、進んでいくことに何ら変わりありません。また、多くの方々へ支持される活動を目指すことも変わりありません。

（学芸係長 遠藤廣昭）

## 企画展・特別展一覧

| 開催年月日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 種 別                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 展 覧 会 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1994(平成6)年度<br>1月31日～3月5日<br>3月25日～5月7日<br>1995(平成7)年度<br>8月1日～8月27日<br>11月11日～12月10日<br>1月13日～2月18日<br>3月5日～4月7日<br>1996(平成8)年度<br>4月27日～6月23日<br>7月6日～7月21日<br>8月3日～9月8日<br>10月5日～11月24日<br>1月28日～2月23日<br>3月8日～4月6日<br>1997(平成9)年度<br>4月26日～6月15日<br>7月16日～8月24日<br>10月25日～11月24日<br>1月17日～2月22日<br>3月7日～4月12日<br>1998(平成10)年度<br>4月25日～6月7日<br>7月25日～9月13日<br>10月10日～11月23日<br>1月15日～3月7日<br>3月27日～5月5日<br>1999(平成11)年度<br>5月29日～7月4日<br>7月31日～9月15日<br>10月9日～11月28日<br>12月14日～1月10日<br>1月29日～2月27日<br>3月25日～5月14日<br>2000(平成12)年度<br>6月2日～7月2日<br>7月20日～9月3日<br>10月7日～11月26日<br>12月7日～12月21日<br>1月27日～3月11日<br>3月31日～5月6日<br>2001(平成13)年度<br>7月20日～9月2日<br>9月22日～10月14日<br>10月27日～11月25日<br>12月4日～12月23日<br>12月4日～12月23日<br>1月26日～3月3日<br>2002(平成14)年度<br>4月6日～5月12日<br>6月1日～7月7日<br>7月27日～9月16日<br>10月12日～11月24日<br>12月14日～1月13日<br>1月25日～3月9日<br>2003(平成15)年度<br>4月5日～5月11日<br>5月24日～7月6日<br>7月19日～8月17日<br>8月23日～9月23日<br>10月18日～11月24日<br>12月13日～1月18日<br>1月31日～3月7日<br>2004(平成16)年度<br>4月10日～5月16日<br>5月29日～6月27日<br>7月17日～9月5日<br>10月 9日～11月28日<br>12月11日～1月16日<br>12月11日～1月16日 | 開館記念展示<br>開館記念特別展<br>横浜市蔵ネイラーコレクション特別公開PART2<br>特別展<br>企画展<br>企画展<br>企画展<br>横浜市蔵カメラ・写真コレクション<br>ネイラーコレクション特別公開<br>収蔵資料展Ⅰ<br>特別展<br>オリエンタリスト江上波夫コレクション展<br>企画展<br>企画展<br>横浜市蔵カメラ・写真コレクション特別公開<br>特別展<br>収蔵資料展Ⅱ<br>企画展<br>企画展<br>収蔵資料展<br>特別展<br>企画展<br>特別展<br>開港140周年記念企画展<br>企画展<br>特別展<br>開館5周年記念<br>企画展<br>企画展<br>収蔵資料展<br>企画展<br>特別展<br>新指定文化財展<br>企画展<br>特別展<br>大塚・蔵勝土遺跡公園開園5周年記念特別展<br>東海道宿駅制度400年記念展示PART1<br>東海道宿駅制度400年記念展示PART2<br>東海道宿駅制度400年記念展示PART3<br>平成13年度 横浜市新指定文化財展<br>企画展<br>企画展<br>2002FIFAワールドカップ記念文化催事<br>企画展<br>特別展<br>平成14年度 横浜市指定・登録文化財展<br>横溝屋敷文化財指定15周年記念企画展<br>特別展<br>企画展<br>ペリー来航150周年記念収蔵資料展<br>特別展<br>平成15年度 横浜市指定・登録文化財展<br>企画展<br>戸塚宿400周年記念企画展<br>開国150周年記念収蔵資料展<br>収蔵資料展<br>特別展<br>平成16年度 横浜市指定・登録文化財展<br>横浜の遺跡展 | 灯火具のあゆみ<br>弥生の“いくさ”と環濠集落～大塚・蔵勝土遺跡の時代～<br>カメラで時代をさかのぼる<br>中世の世界に誘う 仏像～院派仏師の系譜と造像～<br>幻の縄文土器の時代～都筑区桜並遺跡の発掘調査の成果～<br>東海道と神奈川宿<br>港北ニュータウン地域の暮らし<br>コレクションに見る写真の歴史〔Ⅰ〕<br>光をつかまえる～写真の誕生～乾板写真の出現<br>旅・東海道・金沢八景<br>縄文文化誕生～都筑区花見山遺跡が解き明かす最古の土器文化の謎～<br>ユーラシア諸文明の交感<br>江戸時代の横浜の姿～絵図・地誌などにみる～<br>海からの江戸時代～神奈川湊と海の道～<br>コレクションに見る写真の歴史〔Ⅱ〕 広がる写真<br>乾板・ロールフィルムの登場とアマチュア層の誕生<br>中世よこはまの学僧 印融～戦国に生きた真言密教僧の足跡～<br>第Ⅰ部 土の鈴～始まりとかたち～ 第Ⅱ部 江戸時代の生活諸相<br>横浜発掘物語～目で見える発掘の歴史～<br>絵図・古文書で探る村と名主～武蔵国久良岐郡上大岡村～<br>新収蔵資料展'98<br>兵(つわもの)の時代～古代末期の東国社会～<br>たこ風あがれ<br>幻の宮 伊勢斎宮～王朝の祈りと皇女たち～<br>開港期・横浜の風景<br>海とともに暮らしていた頃<br>秀吉襲来～近世関東の幕開け～<br>館蔵品の紹介展示<br>中世の梵鐘～物部姓鋳物師の系譜と鋳造～<br>江戸時代のよこはま 都筑の村々～絵図・古文書で探る区域のすがた～<br>描かれた東海道<br>くらしと道具の百科事典～ちよっと昔を探してみよう～<br>発見! 巨大集落～大熊仲町遺跡と縄文中期の世界～<br>古墳からのメッセージⅠ 横浜の古墳と副葬品<br>古墳からのメッセージⅡ 大古墳展 ヤマト王権と古墳の鏡<br>甕の大環濠集落～吉野ヶ里から大塚まで～<br>屏風・絵画に描かれた東海道<br>東海道と保土ヶ谷宿<br>東海道双六の世界<br>中世の棟札～神と仏と人々の信仰～<br>東へ 西へ～律令国家を支えた古代東国の人々～<br>ようこそ、歴史の横浜へ<br>たのしい考古学<br>くらしを集める くらしを探る 屋根裏の博物館～実業家渋沢敬三が育てた民の学問～<br>新指定文化財を中心に<br>江戸時代の獅子ヶ谷村～絵図・古文書で探る村と名主～<br>古代日本文字のある風景～金印から正倉院文書まで～<br>古代を考えるⅢ 文字との出会い～南武蔵・相模の地域社会と文字～<br>ペリー来航と東京湾<br>PART1 絵地図にみる世界・日本・東京湾<br>PART2 東京湾岸の地域と村々<br>鎌倉御家人 平子氏の西遷・北遷<br>製造元祖 横浜 風琴 洋琴ものがたり<br>東海道と戸塚宿<br>武州金沢藩と黒船来航<br>江戸風俗絵巻～描かれたあそびとくらし～<br>ヤマトとアヅマ～武具からみるヤマト王権と東国～<br>指定された薬師仏<br>華麗な縄文土器の世界 |

ここでは、現在の職員のほかに、すでに退職された安藤広道・小倉淳一両氏から思い出などを寄せていただきました。

## ◎特別展・企画展の思い出

私は、開館記念の「弥生の“いくさ”と環濠集落」をはじめ、「幻の縄文土器の時代」「縄文文化誕生」「横浜発掘物語」を担当させていただきました。博物館の仕事についても試行錯誤。多くの方々に支えられながら、とにかく出来ることは何でもやってやろうと、無我夢中で展示と格闘してきたというのが実感です。

展示を企画する際に、私が常に念頭に置いていたのは、「横浜市歴史博物館だからしなければならぬこと、そして横浜市歴史博物館にしかないことは何か」という点でした。また、常設展示とは違う期間限定の展示であればこそ、今回は都筑区住民向き、今回は全国の研究者向きと、敢



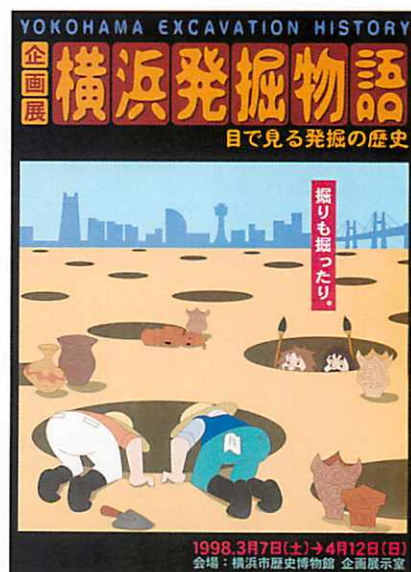
「弥生の“いくさ”と環濠集落」



えて主要な対象を絞った内容にすることも考えてきました。

私には、その目論見が上手くいったか、あるいはそもそもそうした考えが正しかったのかは分かりません。ただ、今でも、それが地域博物館における特別展・企画展の一つのやり方かも知れないな、と思っています。

(考古・安藤広道、現職 慶應義塾大学文学部助教授)



「横浜発掘物語」

## ◎学芸員は心配性

考古学の担当者になってはじめて開催した縄文時代の特別展「発見！巨大集落」は最初から最後まで緊張の連続でした。博物館に入ったばかりの私は、展覧会の企画から企画展示室の使い方までのすべてを一から学ぶしかなかったからです。そうこうしているうちに会期は刻々と迫り、締切に追われながらの資料調査、書類作成、図録の執筆という頃になると、見通しの甘かったことと、それに伴う自転車操業状態を実感することになりました。

各地に資料借用に向かう時期には心身共に疲労のピークに達し、展示にまでたどり着けるのだろうかと心配でしたが、幸い博物館や共催の埋蔵文化財センターの皆さんにお力添えをいただき、何とか無事開催にこぎつけることができました。しかし胸をなでおろしたのもつかの間、翌月に旧石器捏造事件が起こり、騒然とした雰囲気の中で会期末を迎えたことには忘れがたいものがあります。



「発見！巨大集落」



## ◎企画展・特別展を振り返って

雪の降りしきる青森へ資料返却に向かったのも今となつてはよい思い出ですが、一方で土器や石器に万一のことがあったらと、気が気ではありませんでした。

展覧会は山あり谷あり。学芸員としての私はいつも心配性でした。

(考古・小倉淳一、現職 法政大学文学部専任講師)

古代の横浜地域を考える資料は、文献資料はいうに及ばず、考古資料の数もそれほど多くありません。少ない資料をフルに活用し、古代の横浜地域の特徴ある姿を展観していくため、それらを武蔵・相模地域をはじめ関東地方全体の中に位置づける、中央政府との関係を探る、他地域とのつながりに注意する、などの視点を意識して展覧会を開催してきました。西ノ谷遺跡から出土した鉄製小札に注目し、大鎧の製作や兵の活動との関連を展開した「兵の時代」、古代の横浜地域に居住した人々の様々な負担や移動の特徴を示した「東へ、西へ」、地域を中心に神奈川県域の文字資料を集



「ヤマトとアヅマ」

め、その機能を考えた「文字との出会い」、朝光寺原1号墳から出土した鉄製の甲冑の位置づけを、ヤマト王権と東国との関わりの中で展観した「ヤマトとアヅマ」は、先の視点に基づいたものです。また市域の古墳の資料を集中的に集めて展示した「横浜の古墳と副葬品」は、多量の三角縁神獣鏡の展示を中心とした巡回展の「大古墳展」に関連して、その地域版を意図したものでした。

今後も、数少ない古代関係の資料を東国全体の中、ひいては列島全体の中で相対化し、市域の特徴を引き出す展覧会を開催していきたいと思います。

(古代・平野卓治)

## ◎展示と借用

企画展は展示資料が命です。資料に語っていただけなければ展示になりません。そのためにもストーリーにあった資料の借用はその生命線なのです。中世資料の少ない横浜では、企画展は市域の資料を中心に関連資料を市外にもとめ、ストーリーを組み立てる、ということ常套手段とします。つまりテーマの設定によっては、市域の資料を核としながらも、ほとんどが市外の関連資料ということにもなりかねません。これはある意味ではやりやすい面もあるのですが、一方で借用を失敗すると、展覧会にならないこともあるということです。

展示を計画する時、希望的観測も入れて、まず最初に大きく三つのパターンを構想してみます。一つはこれだけ出来れば満足のもの、二つはこのぐらい出来れば展覧会になると考えるもの、三つ

目はここまですが最低線だというものです。そして大方は三番目ギリギリの展示となってしまします。これは展示したかった資料が様々な理由で借用できなかったということが原因の一つということもあります。しかし考えて見れば、勝手なことをいっているのです。借用できないからといって、それが原因で思うような展示ができなかったからといって、その原因は全て自分の力量不足からくるものなのです。それでも何がいえるかなのです。ただし、一つだけ守り通したことがあります。それは少なくとも市域に現存し確認できた資料は最大漏らさず展覧するということです。自慢ではありませんが、この一〇年間これだけは達成してきました。

これまで多くの方々にご迷惑をおかけしました。この場をかりてお礼申し上げます。

(中世・遠藤廣昭)

## ◎近世関連の企画展について

近世（江戸時代）担当の学芸員として行ってきた企画展・収蔵資料展は、その対象とする内容から、いくつかに分類することができまます。一つは、二〇〇一（平成一三）年に四〇〇周年を迎えた東海道関連のもので、市域に属する神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿といった三つの宿場や、当館で収集した東海道を描いた屏風・絵巻・双六などを紹介する展示を行いました。二つめには、個別の村や地域を対象とするもので、上大岡村（港南区）・獅子ヶ谷村（鶴見区）や都筑区の村々などを扱っています。三つめは、横浜開港やペリー来航に関連するもので、当館収蔵資料を中心に紹介



しました。

今後の予定としては、(1) 市域に唯一本拠を構えた大名である武州金沢藩(藩主米倉氏)の近世後期の状況(平成一七年度)、(2) 江戸の材木商吉田勘兵衛によって行われた吉田新田の開発(平成一八年度)に関わる展示を計画しています。近世横浜の地域性を紹介していくという観点からみると、取り上げなければならないテーマはまだまだ多く、開館一〇周年という節目の中で今一度熟考する時期にきているようです。

(近世・斉藤 司)



「東海道と保土ヶ谷宿」

## ◎試行錯誤が続いていく...

企画展を担当するたびに、来ていただいた方にどうやって興味を持ってもらうか、目を引きつけることができるか、を考えさせられます。

博物館の企画展というと、多くの資料が展示され、さらに資料では伝えきれない部分を補う解説パネルがあります。けれども内容に興味を持ってもらえないと、多くの資料と解説パネルの前を来

館者の方が通り過ぎてしまうようなことにもなりかねません。

そこで、まず目を引きつけ、興味を持ってもらえるような展示を考えました。たとえば「くらしと道具の百科事典」では昭和三〇年代の学校の教室や家庭の居間と台所を、「屋根裏の博物館」では渋沢敬三がつくった屋根裏の博物館を再現しました。当時のある状況を再現し、そこを舞台に多くの資料を展示したのです。来ていただいた方が当時を疑似体験するなかで、漠然とでも何か興味をもってくれるのではないかと考えてのことでした。

また子どもたちにも何とか展示を見て欲しいとの考えから、展示資料が答えになるようなワークシートやクロスワードパズルを作ってみました。パズルを手に見している子どもたちの姿は、とてもありがたく思いました。

興味を持ってもらう仕掛けはいろいろ考えることはできそうです。一〇年が過ぎ、薄く固くなつてしまった頭をひねりながら、これからも試行錯誤を続けていきたいと思えます。

(民俗・刈田 均)



「屋根裏の博物館」

## ◎お寺の本堂もスタジオに

企画展・特別展では、毎回、展示図録や資料集を作成しています。そのため、展示資料の写真撮影が必要になりますが、他の博物館や資料館から借用する資料については、事前に、撮影機材を持って借用先に出向き撮影をさせて頂いています。

資料を借用する先は、博物館や資料館などのほ



か、お寺や神社また個人のお宅の場合もあります。博物館や資料館でも、撮影のための場所や設備が充分揃っている訳ではありません。そのため、カメラや三脚はもちろん、大型のストロボ、ライトスタンド、背景紙など撮影に必要な機材一式を車に積み込んで出かけています。撮影する場所も、広々と使えるスタジオはほとんどなく、展示室や収蔵庫の一角、また作業室の片隅や研修室などを借りることが多く、現地に着くとまず、資料やテーブルを移動して場所を確保するところから始まります。そこに、ストロボや背景紙をセットし、外の光が差し込んでしまう時は布や板で光を遮り、即席のスタジオを作って撮影を行っています。時には、お寺の本堂や神社の本殿もスタジオに早変わりします。

こうして、ひとつの展覧会でも何か所にも出向いて撮影することもあります。条件に恵まれた所ばかりではありませんが、これからも、多くの情報を伝えられるような写真の撮影を心掛けていきたいと思っています。

(写真・吉川久雄)

## ◎もう一つの博物館資料—写真

博物館には実物資料とともに、写真もたくさん保存されています。当館でも開館時から多量の写真があり、この整理・保管を任せますと言われた時には困惑しましたが、他館の事例を参考にコンピュータを使った整理・保管システムを作り、一〇年経った現在では登録済みの写真だけでも二万

点近く、未整理分を含めれば優に三万点を超すこととなります。

博物館ではなぜ、このように大量の写真を保存する必要があるのでしょうか。理由の一つは写真が記録資料として重要なためです。現在失われた景観や遺跡の発掘状況を撮影した写真は、在りし日の姿の唯一の記録として将来に伝えてゆかなくてはなりません。実物資料の写真も同様に、その資料の現状記録として不可欠なもののなのです。もう一つには利用の側面があります。当館の写真は貸出も行っていますが、博物館や出版社、放送局から個人の方まで、さまざまな目的での利用申込があり、その件数は年々増加しています。写真の形ではありますが資料を利用していただくことによって、利用者の方と博物館の双方が、その資料の新たな意味を見出していくことにつながるのではないのでしょうか。

このような意味から、写真は博物館にとって重要な資料であり財産なのだと考えています。

(古代・柳沼千枝)

## ◎学芸員の企画展業務

企画・特別展を皆様にご覧いただくまでに結構時間を要します。展開内容をまず固めます。展示担当者は展示資料を市・県・全国に追い求めます。各博物館・各教育委員会だけではなく、個人の方もその対象となります。結果展示資料の写真撮影や借用の契約となります。

次に取りかかるのがポスターやチラシの広報物作成です。総務企画課との会議でポスターデザインが決定します。展示の品格と魅力と時代の壮大

な歴史観を強烈に訴求し、お客様に観たいと言わせる演出が要求されます。ここで担当者のセンス・技量が問われます。ポスターの巧拙でも集客力が変化します。皆様は当館の企画・特別展のポスターで一番印象に残っているのは何ですか？

次に欠かせないのが図録です。校正も資料収集の間に担当者が行う重要業務です。また、展示開催中は講演会・フロアレクチャーをし、会期終了間際には資料等ご協力頂いた前述の方々へ連絡し、会期終了後、資料の返却かたがたお礼の出張です。この時点で既にお客様のご要望を踏まえ一層魅力ある次回の企画に向かって始動しているのです。学芸員は前向きに業務を八面六臂に行っているのです。

(事務・佐藤直美)

## ◎いろいろと想像してみてくださいね

今年の夏は、考古学資料から横浜に住んでいた昔の人々の暮らしを考える展示を行います。夏休み期間に小学生のみなさんも、お父さんやお母さんと一緒に楽しんでももらえるような展示にしたいと考えています。

発掘調査で出土した何千年も前の土器や石器はずつと昔の人々の生活道具です。でも、今の道具と似ている点もあり、縄文土器の多くは、お料理を作るときのお鍋のようにして使われていたと考えられます。「考古学」と言うと難しく聞こえますが、長い間土の中で眠っていた昔の人の道具はどうやって使っていたのだろうか、どうやって作ったのだろうか、など誰もがもつ疑問から出発しています。ですから、難しく考えずにご覧ください。



現在は、どうしても皆様に分かりやすく見ていただけるのかとあれこれ模索中です。今度の夏休みの一日は、昔の人の生活について、すこし頭を使って考えながら、楽しんで博物館に来ていただければ幸いです。

(考古・中川二美)

### ◎秋の特別展「横浜うらしま草子」 (仮称)にご期待を!

今年の秋の特別展は、横浜市神奈川区に伝説のこる「うらしまたろう」です。より多くのみなさまに関心や親しみを持っていただけるようにこのテーマを選びました。現在は調査作業中ですが、横浜のうらしまたろうには、伝説のみならずいくつもの史料が存在するのです。

うらしまたろうの起源は、神話の時代にさかのぼります。そして約一五〇〇年を経てなお、根幹となる内容を変えずに現在まで伝わっています。このような物語が市内に伝わっていることは、とても貴重なことではないでしょうか。

もちろん、ご存知のように、最初にうらしまたろうの物語が成立したのは、横浜市ではありません。丹後半島をはじめとして伝説の地は全国にあります。展示では、さまざまなうらしまたろうの史料をご紹介しますとともに、なぜ横浜地域に伝説が定着するにいったったかも、あわせて考えてみたいと思っています。

どうか、秋の特別展「横浜うらしま草子」(仮称)にご期待ください。

(中世・阿諏訪 青美)

### 博物館への注目と期待

歴史関係者に広く読まれている月刊誌「日本歴史」の二〇〇五年一月号では、「博物館と日本史」を特集しています。この中に、全国の日本史関係者七〇名に対して、これまでに各地の博物館で開催された独創的で優れた展示会について、「有意義な図録」と「印象に残る展示」をアンケートした結果が載せられています。それによると四名の方が当館が開催した「鎌倉御家人平子氏の西遷・北遷」をあげていますが、これは東京国立博物館の「時を超えて語るもの」の五名に次ぐ多さで、この展示と図録が高い評価を受けていることがわかります。これ以外にも「中世の棟札」を二名、「古代を考えるⅢ 文字との出会い」・「東へ西へ」・「兵の時代」・「秀吉襲来」を一名があげており、それぞれに付けられた寸評と合わせると当館への注目と期待が大きいこともわかります。

これを励みに、これからも地域の埋もれた歴史や資料を掘り起こし、市民の皆様にご伝えています。どうぞご期待ください。



# 企画展・特別展を見学して

企画展を観ていただいたのご感想・ご要望を市民の方からいただきました。

## フロアレクチャーで不思議体験

清瀬喜美さん（都筑区在住）

平成七年に近所に歴史博物館がオープンし、歴史好きな私は小躍りしました。以来、博物館は「私のお楽しみスポット」となりました。さまざまな催し物にせっせと葉書を出し、歴史を堪能しています。歴史好きな友人との出会いにも感謝です。



「ヤマトとアヅマ」フロアレクチャー

企画展はかかさず観ているといったら嘘になりますが、なかなかお目にかかれない資料に出会えるチャンスです。ただ、一人で展示を観た時とフロアレクチャーを聞いた時とは、理解度が全く違います。たとえば、鎌倉御家人平子氏の西

遷・北遷」では、地図や古文書中心でしたが、芸員のお話で、激動の中世を生き抜いた平子氏の物語が作れそうでした。発掘資料中心の「ヤマトとアヅマ」では、鎧だらけの甲冑が源平時代のきらびやかな鎧・兜につながっていくのが見えてくるから不思議でした。

でも、フロアレクチャーに出かけられないときもあります。そこで、博物館にお願いです。学芸員の方の解説を録音していただければ、再生しながら展示を見て回ることができそうです。

これからも、博物館を自己啓発の場として利用させていただきたいと望んでいます。

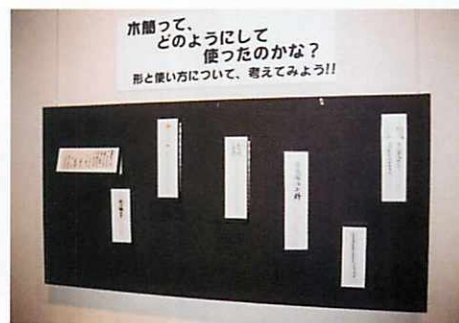
## 小学生とみた博物館の展示

小学校教員 M・M生

横浜市歴史博物館が開館一〇周年を迎え、市内外の大勢の小学生の歴史学習の場として定着してきていることを喜ばしく思います。

さて、小学校見学の主体は常設展示の見学になりますが、際だっているのは、露出展示が多いということでしょう。本物をじかに見られるのは、子供たちにとって何ものにも代え難い動機づけになるものだと思います。

さて、特別展・企画展についてですが、歴史学習と関連する興味あるテーマがあってもタイミングが悪く、児童を連れてこれられない悩みがあります。



「古代日本 文字のある風景」展示室内のクイズ

す。小学生の見学時期に合わせた、学習と関係のある展示を期待したいものです。かつて開催された「くらしと道具の百科事典―ちよつと昔を探してみよう―」は、中学年の学習にぴったりの内容で多くの学校で好評でした。また、「古代日本文字のある風景」は、学習内容と密接に関連があったうえに、子供が興味を持って展示を見るようにクイズが用意されているなど趣向を凝らした展示が印象的でした。今後は、学校の長期休暇に「博物館へ行ってごらん」と勧められるような企画展示があるといいなと思っています。

ただ、常設展、企画展ともに小学生には説明文が難しすぎて、子供だけの活用が難しいこと、「横浜に生きた人々」を中心にした博物館であるため、授業に即した活用がしにくいという難点があります。

今後は、私たち教師も歴史学習の「オリエンテーション」としてだけでなく、歴史学習の発展としての「総合学習の場」へと活用の幅を広げていくこと等が必要だと思います。

# 普及啓発事業の10年

## 開館前史のひとコマ

「博物館の普及教育事業がめざしたもの」

博物館界では館の経営と運営の見直しが、いま盛んに行われています。三〇年ほど前、横浜市教育委員会が国指定史跡三殿台遺跡に考古館を開設してから数年たったころでした。博物館関係者から、横浜市には市立の博物館はありませんか、文化財条例はどうなっていますかと、質問された思い出があります。博物館に関しては、博物館法でいうところの登録博物館・相当施設はありませんが、類似施設はあります、と答えました。

当時の主な施設は、観光行政の目玉である三溪園（経済局）、子どもたちに人気のある市立野毛山動物園（緑政局）、マリントワー内の船の博物館（港湾局）、根岸湾の魚類を飼育する横浜市立間門小学校附属海水水族館（教育委員会）などでしたが、新しい人文系の博物館建設の構想も、区単位の図書館建設が進む中で生まれていました。港北ニュータウンの埋蔵文化財調査の進捗にあわせて、博物館を遺跡群の一角に建設する案や、埋め立てが進むMM21地区内での、図書館・美術館と連携する建設案などがありました。また初代文化財課長澁谷佳道さんと計って、文化財啓発のために、各区内に文化財を展示するケースの設置を進めたものでした。

博物館の建設話がちらちら聞こえる中で、市域の文化財を把握するために横浜市文化財現況調査団が三上次男先生を団長として昭和五〇年度に結成されます。調査員として参加した私は、その成果は、将来、博物館の収蔵資料・基礎展示資料、伝承技能・芸能などにつながると共に文化財条例の基盤を構築するであろうと、勝手に解釈したものでした。

文化財条例に関しては審議会が存在したものの、条例そのものはまだ制定されていませんでした。文化財保護条例の制定は一九八七（昭和六二）年二月二五日で、施行は翌年の四月一日でした。その制定の契機は、一九八四（昭和五九）年八月の上行寺やぐら群遺跡の調査をめぐるものでしたが、この気運の中で一九八五（昭和六〇）年、横浜の文化財を低年齢層（小学校教育）へ伝承させる方策が講じられ、その事業は「ふるさと横浜体験スクール」の名称で一九八六（昭和六一）年度から、博物館という器は持たないものの各種教育施設を利用し、毎年四〇〇名の参加者を募り、地域の伝承技能を持つ方々の協力を得て九年間の実践を積み重ねていきました。それは今日、博物館や学校教育というハンズ・オンの世界に結びつくものでした。

一九九五（平成七）年一月三十一日、横浜市歴史博物館は開館しました。学術的な裏付けをした、モノが展示されました。その脇で普及教育とは何

かと模索しながら、一步を踏み出したわけですが、普及教育という語句には多岐にわたる様態が隠されており、一つの企画を静から動へと移す中で、次々と枝葉が生じ、新しい展開が可能であろうと常日頃考えていました。また逆に、問い直しをしたり、新企画案を取り入れたりする柔軟な姿勢も必要と考えたものです。さらに普及教育は年齢を問わず多くの方々と接する場でもあります。たと



開館1周年記念特別講演会

えば地域の伝承技能を伝えるとします。それは単に技能を伝えるだけではなく、伝える側と、伝えられる側とに心の交流、心の結び付きが生まれてくれることを第一義に願ったものでした。開始されたばかりのハンズ・オンや史跡めぐりなどの折りに、その手段を求め続けたものですが、あつというまに一〇年の節目に達したようです。

若い血をもつ仲間たちによって、より新しい道が展開されることでしょう。

(前普及振興係長 岸上興一郎)

## 普及啓発活動の一〇年

博物館の普及教育活動は、一緒に勉強する市民の方の年齢幅が広く、小学生から年輩の方までが対象となります。そのため、行事のメニューも多様です。当館の活動を、大きくわければ別表の通り、「ふるさと横浜探検」「歴史講座・講演会」「体験学習」となります。また表にはありませんが、図書閲覧室と体験学習室では来館者に対する閲覧サービスや体験指導を行っています。

「ふるさと横浜探検」は、市域や市外にある横浜関連の史跡をめぐる行事で、回数は年に五〜六回、行き先は、市内では金沢・六浦地区、旧東海道・宿場地区、一九九七(平成九)年度からは開港場周辺地区が加わり、この地区が三本柱となりました。市外は考古関係の資料館・遺跡公園と後北条氏の旧城跡をめぐりました。講師は個性的な方々で、その個性に惹かれ、常連の方の多い行事です。

「歴史講座・講演会」はさらにいくつかの行事にわかれます。歴史講座は初年度から始まります

が、平成一一年度までテーマはさまざまでした。テーマが横浜の通史に固まったのは平成一二年度からで、これは横浜開港資料館との組織統合を契機に、扱う時代幅が広がったためです。それでも、都市発展記念館ができるまでは、横浜市史編集室の方に現代の担当をお願いした時期もありました。

古文書解読教室は平成七年度から、土器作り教室は平成八年度から、少し遅れて古代史講読講座は平成一二年度からスタートし、人気の講座となりました。それぞれ受講生がOB会(横浜古文書を読む会、横浜縄文土器づくりの会、横浜古代史料を読む会)を作り活動しており、博物館の事業にもご協力をいただいています。平成一二年度から始まった古代人まるごと体験は、小学五、六年生を対象に、大塚遺跡の復元住居での宿泊を中心に、古代人の体験をする行事で、横浜縄文土器づくりの会や多くの職員の協力を得て行いました。

「特別講演会」は一年に一度、館の開館日近くに行う記念行事で、大きな視野から横浜を歴史的に見つめ直すようなお話をいただきました。横浜市文化財保護審議会委員の先生を中心に、これまで一〇人の方に講演していただきました。このうち、三人の方が故人となられており、寂しい限りです。

原則小学生とその親子が対象の「体験学習」は、当初館内の体験学習室で行っていましたが、遺跡公園のオープンを機に、平成九年度から公園内の工房に場を移しました。体験のメニューは最初の三年でほぼ出そろいましたが、万祝染のように、企画展示との関連から新メニューが開拓された例もあります。「体験学習」に関しては、一年生から参加してくれた常連のM君が、今春中学生にな



体験学習(ぞうり編み)

り「体験学習」を卒業します。一〇年間の長さを感ぜるとともに、一〇年を節目に、「体験学習」も含め普及啓発活動全般の問題点を整理し、来館者の満足へつなげるような方向を模索する時期だと痛感しています。

(普及振興係長 井上 攻)

## 博物館とのおつき合い

石田康明(横浜縄文土器づくりの会・  
横浜古文書を読む会会員)

開館一〇周年おめでとうございます。

私と館とのおつき合いは「土器作り教室」の第一回、「古文書解読教室」の第二回を受講して以



土器作り教室

来のことですから、もう九年近くになるのかと感無量です。それぞれのOB会のメンバーとしての活動は、今では私のリタイア後の快適生活の中に、新しい仲間との出会いを含めて、しっかりと根を下ろしています。

「土器の会」（現在会員五七名）は、年三回の野焼きをメインに、春には作品展をやらせていただくなど、活発な活動を続けています。館のお手伝いとしては、毎年の「土器作り教室」や夏の「古代人まるごと体験」で、子どもたちからかえってこちらが元気をもらっています。昨年からはじめて小学校への土器作りの出張授業を行い（丸山台小）、多少とも地域のお役に立てたかと大変うれしく思いました。こうして何とか自立した活動ができているのも、館のご支援、とりわけ前任の岸上さんの熱血溢れるご尽力と叱咤激励があったればこそで、改めてお礼を申しあげたいと思います。

「古文書の会」（現在会員九六名）は、学芸員の方の懇切丁寧なご指導で、最近は大変実力十分の会員も多くなり、一昨年からは館の未解読文書を読み解くお手伝いをするグループも発足しました。



ふるさと横浜探検（寺家の谷戸）

個人的には戸塚宿の青木友八旅日記を読み通した思い出が一番で、友八さんの日記を片手に木曾路を辿った旅の楽しさは忘れられません。また、古文書の学習を通して神奈川の歴史を知り、地元への愛着が深まったことも大きな収穫です。

最後になりましたが、普段役職名でお呼びすることもなく甘えてばかりですが、明るく気さくな全学芸員の皆さんに心からお礼を申しあげます。どうか今後ともよろしく願います。

〈係員から一言〉

## 「谷戸たんけん」の試み

谷戸とは横浜市の内陸部に存在する典型的な小さな谷筋を指します。「谷戸たんけん」はその谷戸が残されている青葉区の「寺家ふるさと村」を訪ね、農業を中心にくらしが営まれていた頃の環境や景観を学ぶことを目的としています。

夏休みに実施する「谷戸たんけん」は小学生の子どもたちも参加できます。講師は寺家の自然を知り尽くしている杉本義一さん。田んぼや里山のある谷戸を歴史だけでなく自然からも探ります。大人も子どもも一緒になって、トンボが飛び稲穂が実る田んぼを眺めたり、蛇に気をつけながらクヌギやコナラのある里山に登ったりと、かつての横浜を体験します。ふだんの「ふるさと横浜探検」とはちよつと違ったプログラムです。

（刈田 均）

## 古代人まるごと体験講座裏話

弥生時代の暮らしを体験する「古代人まるごと体験講座—大塚ムラの一日体験—」。一日「まるごと」弥生人の生活を模した体験を、とスタッフは毎年プログラムに苦心しています。特に悩むのが、食事のメニューです。食事の担当になったスタッフは、弥生時代の遺跡から出土した食材のリストアップから始め、それらの食材を組み合わせて献立を考えます。擬似弥生料理の最初の毒味役は、スタッフの家族です。来年もまた、食事担当のスタッフの家では、ある日突然奇妙な古代料理

(?) が並ぶことになるでしょう。

## 古文書を読む楽しさ

「古文書を読む会」から学んだこと

(亦野あゆみ)

「古文書を読む会」は、博物館で毎年行う連続講座「古文書解読教室」のOB会で、月二回それぞれ午前と午後に古文書を読んでいます。時には外に飛びだして、史跡を巡ったりと、活発に活動しています。私が会の皆様と古文書を読みはじめから、もうすぐ一年半になりますが、皆様の豊富な知識と古文書への愛情に、いつも助けられて



古代人まると体験講座

ばかりです。会には、すでに古文書歴一〇年以上という方から今年新たに会に参加した方まで、いろいろな方がいらっしゃいますが、一緒に古文書を読んでいると、どの方も、くずし字の向こうに広がる世界が本当にお好きなのだと感じ、私も、古文書を読み解く楽しさを、改めて実感できます。これからも、この実感を忘れないようにしつつ、会の皆様と一緒に古文書の世界を楽しんでいけたらと思っています。

(小林紀子)



横浜古文書を読む会の歴史散歩

## 図書閲覧室を訪れた方

図書閲覧室の一〇年間を、みなさまからの質問を一つ一つ繰ってみる方法で振り返りますと、本当にたくさんさんの顔が浮かびます。

食品店を開くために地域の民俗について調べにいらした方や、ご新居の案内状に都筑区の歴史を添えたいからと、地名の由来を調べに来られた方、おばあさまに連れられて、夏休みの宿題に当博物館の歴史を調べに来たという九州の小学生、その後目的は思うように果たせたでしょうか。みなさんの「こんなことが知りたい！」欲求とともに私たちも様々なことを学ばせていただいております。これからも、ひとりひとりの使い方と閲覧室をフルに利用して下さい。

(古川恵美)



図書閲覧室

## 普及啓発事業一覧

| 年度                 | ふるさと歴史探検                                                                                                         | 歴史講座・講演会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 体験学習                                                                                                                                                                          |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一九九四年度<br>(平成六年度)  | ・国史跡「三股台遺跡」と遺跡発掘現場の見学<br>・国史跡「称名寺境内」と金沢周辺の歴史散歩<br>・江戸時代の神奈川宿探訪<br>・鶴見川流域の古墳・横八墓を訪ねて<br>・小田原城と石垣山一夜城を訪ねて          | ・開館記念特別講演会「平野邦雄「博物館が目指すもの」、岡本勇「都筑の大名」」<br>・歴史講座「横浜に生きた人々の歴史」(二回)<br>・歴史講座「横浜に生きた人々の歴史」(一六回)<br>・開館記念特別講演会「網野善彦「海から見た中世の日本列島」」                                                                                                                                                                                                                               | ・催事体験<br>・ぞうり編み、藁細工(離人形) 竹細工(竹とんぼ)、桃の節句時代衣装<br>・ぞうり編み(三回)、藁細工(かぶと、離人形各一回)、竹細工(風車、うぐいす笛、がりがりとんぼ各一回)、土偶作り(二回)、勾玉作り(二回)、風作、桃の節句時代衣装                                              |
| 一九九六年度<br>(平成八年度)  | ・国史跡「大塚・蔵勝土遺跡公園」と遺跡発掘現場の見学<br>・国史跡朝夷奈切通と金沢周辺の歴史散歩<br>・江戸時代の民家を訪ねて<br>・江戸時代の保土ヶ谷宿探訪<br>・戦国の城・国史跡「八王子城址」を訪ねて       | ・横濱考古学講座(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「木村礎「長塚節「土」の世界」二〇世紀初頭の村落生活」<br>・歴史講座「戦国文書で読む横浜の歴史」(一〇回)<br>・古文書読解教室(一〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「稲葉和也「横浜の民家―旧長沢家住宅の復原を記念して」」                                                                                                     | ・催事体験<br>・小田原提灯、ぞうり編み(四回)、勾玉作り(二回)、土偶作り(三回)、竹細工(うぐいす笛、風車各一回)、風作り、紙漉き、藁細工(離人形)<br>・小田原提灯、ぞうり編み(四回)、勾玉作り(二回)、土偶作り(三回)、竹細工(うぐいす笛、風車各一回)、火おこし体験、風作り、紙漉き、藁細工(離人形)                  |
| 一九九七年度<br>(平成九年度)  | ・国史跡「大塚・蔵勝土遺跡公園」と遺跡発掘現場の見学<br>・国史跡称名寺境内と平潟湾の歴史散歩<br>・よこはま事始め①野毛地区<br>・県史跡品濃一里塚と戸塚周辺の歴史散歩<br>・戦国の城・国史跡三島市山中城跡を訪ねて | ・歴史講座「横浜の近世」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「高村直助「近代横浜の軌跡」「帝都の関門」横浜」<br>・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「平野邦雄「木」の文化―出雲大社と伊勢神宮を中心に」                                                                                          | ・催事体験<br>・小田原提灯、ぞうり編み(二回)、竹細工(風車、うぐいす笛各一回)、土偶作り(二回)、火おこし体験、勾玉作り(二回)、土鈴作り、風作り、紙漉き、藁細工(離人形)<br>・小田原提灯、ぞうり編み(二回)、竹細工(風車、うぐいす笛各一回)、土偶作り(二回)、火おこし体験、勾玉作り(二回)、土鈴作り、風作り、紙漉き、藁細工(離人形) |
| 一九九八年度<br>(平成一〇年度) | ・鶴見川流域の古墳・横八墓を訪ねて<br>・戸塚宿から藤沢宿への歴史散歩<br>・よこはま事始め②山手地区<br>・国史跡朝夷奈切通と金沢周辺の歴史散歩<br>・戦国の城・国史跡鉢形城跡を訪ねて                | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「吉田章一郎「陶磁の歴史―窯址の発掘からみる」」<br>・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「五味文彦「鎌倉時代の東国の文化」」                                                                                                  | ・催事体験<br>・小田原提灯、ぞうり編み(三回)、竹細工(風車、うぐいす笛各一回)、土偶作り(二回)、染めもの、ぞうり編み、藁細工、土鈴作り、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、ぞうり編み、風車、染めもの、土偶作り(二回)、藁細工、風作り、紙漉き                                         |
| 二〇〇〇年度<br>(平成一二年度) | ・原始古代の史跡探訪 大塚遺跡と登呂遺跡<br>・江戸時代の神奈川宿探訪<br>・よこはま事始め 野毛地区<br>・国史跡朝夷奈切通と鎌倉周辺の歴史散歩<br>・小田原城址と石垣山一夜城址の探訪                | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「吉田章一郎「陶磁の歴史―窯址の発掘からみる」」<br>・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「五味文彦「鎌倉時代の東国の文化」」                                                                                                  | ・催事体験<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、ぞうり編み、風車、染めもの、土偶作り(二回)、藁細工、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、ぞうり編み、風車、染めもの、土偶作り(二回)、藁細工、風作り、紙漉き                                                             |
| 二〇〇一年度<br>(平成一三年度) | ・原始古代の史跡探訪 大塚遺跡と登呂遺跡<br>・寺家の谷戸<br>・よこはま事始め 山手地区<br>・保土ヶ谷宿周辺の史跡散歩<br>・称名寺と野島<br>・国史跡長浜城と韭山周辺の歴史散歩                 | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「五味文彦「鎌倉時代の東国の文化」」<br>・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「河合正朝「東国の水墨画」」                                                                                                            | ・催事体験<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き                                                             |
| 二〇〇二年度<br>(平成一四年度) | ・原始古代の史跡探訪 大塚遺跡と登呂遺跡<br>・寺家の谷戸<br>・よこはま事始め 関内地区<br>・戸塚宿周辺の史跡散歩<br>・山梨県立考古博物館と釈迦堂遺跡博物館の探訪                         | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「河合正朝「東国の水墨画」」<br>・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」 | ・催事体験<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き                                                             |
| 二〇〇三年度<br>(平成一五年度) | ・原始古代の史跡探訪 大塚遺跡と登呂遺跡<br>・寺家の谷戸<br>・よこはま事始め 野毛地区<br>・旧東海道鶴見周辺の史跡散歩<br>・国史跡八王子城跡と八王子市郷土資料館                         | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」                                                                                                                         | ・催事体験<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き                                                             |
| 二〇〇四年度<br>(平成一六年度) | ・開国期の神奈川宿を訪ねて<br>・開国期の関内地区を訪ねて<br>・開国期の山手地区を訪ねて<br>・寺家の谷戸<br>・国宝稲荷山鉄剣と埼玉の古墳群を訪ねて<br>・国史跡山中城跡と三島大社を訪ねて            | ・歴史講座「横浜の歴史」(二〇回)<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」<br>・古文書読解教室(二〇回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・土器作り教室(全四回) (協力・加賀利貝塚土器づくり同好会)<br>・開館記念特別講演会「大塚ムラの一日体験―(都筑区と共催)」                                                                                                                         | ・催事体験<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き<br>・小田原提灯、勾玉作り(三回)、風車、染めもの、土偶作り(二回)、ぞうり編み、藁細工、風作り、紙漉き                                                             |

# 市民参加事業

## 遺跡公園ガイドボランティア

赤ジャン遺跡公園に行く

平成一一年度から、「大塚・歳勝土遺跡公園」の活用と生涯学習活動支援のため、ガイドボランティア事業を開始しました。任期は二年、現在第三期のボランティア四〇名が活動中です。

ガイドボランティアは、半年間にわたる応募者研修・登録者研修を経て、四月、赤いジャンパーにベージュの帽子のユニフォームでハンドマイクを片手にガイドを始めます。開始早々、連日、社



会科見学の小学生一〇〇名を案内します。

ガイドの合間には、発掘体験、遺跡や文化財の見学、遺物整理体験などで学習を深め、懇親会で仲間づくりをし、そしてガイドでお客様との出会いがあり、充実の二年間を過ごしていただ

いています。

当館の大きな特徴のひとつである野外施設「大塚・歳勝土遺跡公園」のより一層の活用と、ボランティアの方々の生涯学習活動支援の事業は、確実に実績を積み、平成一七年四月から活動する第四期のボランティア六〇名が現在研修まったただです。終了した期もそれぞれにOB会を作り、自主的に活発に学習会を開催しています。

遺跡公園で赤いジャンパー姿を見つけたら、ぜひ、お気軽に声をかけてください。一時間の楽しいガイドへご案内いたします。

## エントランスに響く麗しき調べ

エントランスホール・コンサート

毎年、七夕の季節とクリスマスが近づく頃に、エントランスホールが華やかな調べに包まれます。

より多くの市民の皆さんに博物館を知っていただき、博物館を訪れていただくために、平成一三年度から、気軽に、ご家族で生の演奏にふれていただけるコンサートを開催しています。

第一回目は、平成一三年一二月にピアニストの田口千晴さんによる「田口千晴―ピアノの魅力―」を開催しました。椅子を一一〇席用意しましたが、四五〇人の方が来館され、階段から二階ギャラリ―まで立ち見の方で、まさにあふれるばかりの盛



況でした。アンケートにも「初めて博物館に来ました。今度は展示を見に来ます」との感想があり、博物館を知っていただく機会になったことを実感しました。

その後、七夕に贈る歌のコンサート、ハートフルサウンズ、フルートとギター、弦楽四重奏、ピアノの連弾、金管五重奏と開催し、七回で合計二四〇〇人、平均三五〇人の方にお聴きいただいています。

次はいつですか、どんなコンサートですかとの問合せを受けるようになり、博物館の定期コンサートとしてすっかりお馴染みになってきました。今後もご期待下さい。

# 新旧店長対談『こんなショップをつくりたい。』

初代店長（開館当時を知る。）

新店長（就任して一年。まだまだ新人。）

はじめはオリジナルグッズといっても博物館のシンボルマークを入れただけ、だったりしたんだよね。本当の意味でのオリジナルグッズは「東海道遊歴双六」と言えるかな。平野前館長の発案によるものだったんだけど、評判が良かった。



「東海道遊歴双六」

他に印象に残った企画はありますか？

二〇〇〇年に企画展「くらしと道具の百科事典」に関連して、懐かしの駄菓子とおもちゃの販売を行ったときには、展示内容にも合っていたし、たくさんのお客様にご利用いただいた。商品の単価が高くないから利益があるというところまではいかなかったけれど、喜んでいただけたという意味では成功だったと言えるんじゃないかな。

これは絶対イケると思ったものがダメだったり、これはちょっと、と思ったものが人気が出たりするから難しいですね。そもそもミュージアムショップは普通のお店と違って、

て、儲けだけを考えるわけにはいかないです。

そうだね。でもどのような物でも、お客様に「おもしろい」と思ってもらえるものを提供しなくてはならないと思う。

それはショップの商品にかかわらず、博物館全体に言えることですね。

離れてみてわかるんだけど、民間の企業は、例えば新商品を作り出すときに、必ずきつちりとマーケティング調査を行っているんだよね。漫然と作っているものなんてひとつもない。

博物館も世の中をよく見て、お客様が何を必要としているか、どんなものをおもしろがってくれるのかをきちんとつかんでいく努力が必要ですね。いつ来ても新しい発見のあるショップでありたいと思っています。

ます。変化のないことをお客様はすぐ見抜き、飽きてしまうと思うんです。

最近、平田さんの縄文シリーズ（黒曜石のナイフやミニ土



ミニ土器と草木染め

器）や鶴田さんの草木染めなどに人気があります。日用品が安くなってきた今、他にはないこだわりのものが求められているのかもしれないですね。そういう方向で、やってみたい企画や商品はあるのですが……。ただ、ショップだけで何とかするというよりは、もっと館全体を巻き込んだ企画があってもいいなあと考えています。江戸東京博物館ではリニューアルの際、学芸員のプロデュースによるグッズを作って、好評を得ていたか。新しい何かを発信していることを、伝えていく努力も必要ですね。

それは博物館全体にとっても良い効果がありそうな気がするね。

今日はまじめな話ばかりしてしまいました。が、最近お店ではうれしいことがありました。近所の小学生の女の子なんです。黒曜石の小さなナイフをとて気に入って、何度も通ってくれていたみたいなんです。で、ようやく誕生日プレゼントに、ということ。おはあちゃんと一緒に来店してくださった。そういうお話がお客様とできた時にはとても励みになりますね。お客様と店頭でコミュニケーションを図ることも、大切なことだと思います。そうやって喜んでいただけるものを、これからも提供していければと思っています。



ショップ風景

# 「今後の博物館が目指すもの」

横浜市歴史博物館は、一九九五（平成七）年一月三十一日の開館から一〇年が経ちます。この間に全国の博物館を取り巻く状況は、予想を超える速さで変化して、その社会的な役割を問い直されるようになりました。この激動の波を受け止めるこれからの五年間あるいは一〇年間の、当館が目指すところを示してみようと思います。

## 一 地道な努力

文部科学省が二〇〇二（平成一四）年に行った調査によると、全国には五、三六三の博物館（美術館・水族館等も含む）があり、一九九六（平成八）年と較べると八五六館の増加となっています。この数字で見ると日本の博物館界は隆盛が続いているようですが、同じ調査で示されている一館当りの入館者数は、この十数年間減り続けており平成七年と較べると約二〇％も少なくなっています。いわゆる集客力の低下で、これがそれぞれの博物館でも最大の問題点として指摘され、その改善に取り組むことが強く求められています。当館でも常設展と企画展を合わせた観覧者数は減り続ける傾向にありましたが、企画展や普及啓発活動の拡充、学校利用の促進に努めたこともあって、二〇〇二（平成一四年）度からは少しずつ増加してきています。これは大変な難いことで、これか



ら仕事を進める上での張合いにもなります。今後とも、日常的な地道な努力の積み重ねを心がけていきます。

## 二 目的をもった活動

もう一方で、来館されたそれぞれの方にどれほど満足していただけたのか、何を感じとっていただけたのかという問題があります。これらはアンケートなどを通して把握するように努めています。が、実態を知るのにはなかなか難しいものです。しかし、ここで肝心なのは、当館が何を目指しているのか、来館された方にきちんと伝わっているかであることを痛感します。《NEWS 10》（一九九九年十二月）の開館五周年特集の時に、これからの五年間の活動の道筋として「高齢者にやさしく」・「子供に『ふるさと』を」・「本物をじっくりと」・「遺跡での体感を」をあげました。これらは当館の本来の目的と実態に即して、当館が目指すべき方向として示したものです。いま振り返ってみると、この五年間の活動の大方はこの道筋に沿って進められ、具体的な成果を上げることもできました。しかし、まだ途上にあるものや新たな課題が見えてきたものも多く、今後これらの実現への努力と改善のための工夫が必要です。

### 三 市民との協業

近年の特筆される動きとして、当館が開催している古文書解読教室や土器づくり教室、古代史講読講座の参加者によってそれぞれ自主的な会が結成され、盛んな活動が進められていることがあります。また、遺跡公園ガイドボランティアとして活動した有志による会もつくられています。これらの会員が開く勉強会や見学会では、当館の学芸員などが助言者や案内役として活動を支援しています。逆に、古文書の解読の作業、土器づくり教室や古代人まるごと体験などの行事では、これらの方々に手伝っていただいています。こうした相互の関係は、博物館ならではの生涯学習活動ともなっており、ますます大事にしていきたいと思えます。



### 四 活動の点検と改善

全国にはたくさんの博物館がありますが、その一つ一つは独自の目的と役割をもつてつくられています。それぞれの館が同じようなことをするのはなく、本来の目的を活かした特色ある活動を行えば存在意義を強めることができ、集客力の回復にもつながると考えます。当館の場合は「開港期までを中心とする横浜の歴史」を、そこに「生きた人々の生活」の視点から明らかにしていくことがそれに当たります。それを実際に効果のあるものとするためには、資料の収集・企画展の開催・体験学習の催し・情報の提供などの活動を、それぞれ「本来の目的に則っているか」・「専門的にも確かな内容となっているか」・「市民や利用者の要望を反映したものとなっているか」といった観点から点検し、その成果を明らかにするとともに問題点を洗い出すことが重要となります。

以上に述べてきたことを実現したり改善するには、館や館員の力だけでは到底及ばないものもあります。これからの博物館の活動を意義あるものとするためには、館と設置者のそれぞれの役割に応じた取り組みと、市民や利用者との協業を進展させていくことが大切であると考えています。

（学芸課長 前沢和之）

開館10周年記念

# 博物館まつり

1月29日(土)・30日(日)入館無料

みんなで参加できる  
楽しいイベントが  
盛りだくさん!!



## つくってみよう (まがたま・縄文ポシェット)

場 所 研修室  
日 時 1月29日 10:00~16:00  
1月30日 10:00~16:00  
まがたまづくり 石を削って古代人のアクセサリを作ります。  
縄文ポシェット 縄文時代の小さなかごを編んでつくります。  
どなたでも参加できます。

## きいてみよう横浜の歴史 ~学芸員がおこたえます~

場 所 常設展示室  
日 時 1月29日 10:00~12:00  
13:00~15:00  
1月30日 10:00~12:00  
内 容 ●通史展示ガイド  
●質問コーナー  
●土器・石器にふれる  
●仏像の構造を知る  
●赤外線カメラで、見えない文字を読む

## ビデオ上映会

場 所 講堂  
日 時 1月29日 10:00~16:00  
1月30日 10:00~12:00  
内 容 「横浜歴史博物館建設の記録」ほか

## ショップフェア

場 所 ミュージアムショップ  
内 容 今までの企画展・特別展図録を一挙大放しします! 1月29日・30日、1,000円以上お買い上げの方に大抽選会!! 空くじはありません。

## お茶会

場 所 エントランスホール  
日 時 1月29日 11:00~15:00 先着100名  
1月30日 13:00~15:00 先着50名  
料 金 抹茶(菓子付)一席 200円  
協 力 都筑民家園茶道クラブ

## ポスター展

場 所 2F ポスター掲示板  
日 時 1月8日(土)~4月3日(日)  
内 容 開館からの企画展・特別展のポスターを全てご覧いただけます。あなたの好きなポスターを投票して下さい。抽選でプレゼントをさしあげます。

## 子ども絵画展「わたしたちのまちの歴史博物館」

場 所 エントランスホール  
日 時 1月29日(土)~2月20日(日)  
1月30日(日) 10:00から表彰式を行います。  
内 容 都筑区内の小学生の作品110点を展示。

### 編集後記

この一〇年の間に博物館の周辺はビルも増え、すっかり様子が変わりました。町なみの成熟に合わせ、当館もいっそうの精進を続け、魅力ある展示や普及事業を通じて市民の皆様から高い評価を得られるよう職員一同力を合わせ、努力してまいります。引き続きのご支援をお願いいたします。

## 横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

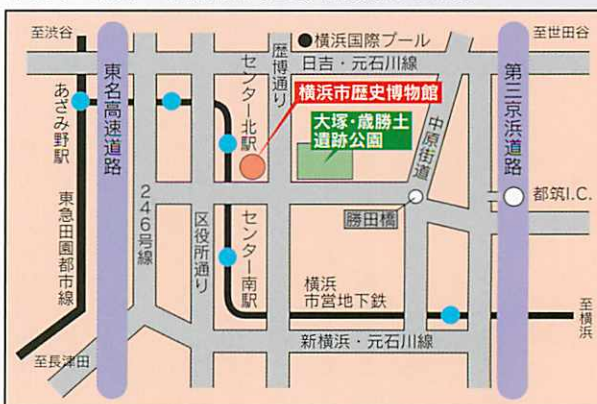
- 開館時間  
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)  
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日  
歴史博物館・大塚遺跡  
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始  
都筑民家園  
毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始  
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

| 区 分     | 個 人  | 団 体<br>(20人以上、1人につき) |
|---------|------|----------------------|
| 一 般     | 400円 | 320円                 |
| 高校生・大学生 | 200円 | 160円                 |
| 小学生・中学生 | 100円 | 80円                  |

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

### ●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分  
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(2時間400円)

### ●インターネットホームページ

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

横浜市歴史博物館ニュース開館10周年記念号/2005年1月31日

- 編集・発行 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 印刷 原印刷株式会社



横浜市歴史博物館

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1  
TEL.045-912-7777 (代表) FAX.045-912-7780